

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 翔洋会	代表者	松山 正春	法人・ 事業所 の特徴	岡山市南区藤田にH19年に特養の併設施設として開設された。昔から農耕が盛んな地域であり、ご利用者も農業に関わった方が多い。ご家族や地域から季節の野菜等、差し入れがあり地産地消の食材を活用している。
事業所名	藤田荘小規模多機能 居宅介護事業所	管理者	筆谷 有美子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	3人	人	1人	1人	人	1人	3人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<p>九つの項目すべてが中途半端になってしまわないように今年度の目標の的を絞って決める。</p> <p>「藤田荘小規模多機能型居宅介護事業所の存在を広く一般の方や地域に知ってもらう」</p> <p>「職員1人ひとりが利用者さんの事や取巻く環境を深く理解しより良いケアにしてゆこう」</p>	<p>毎年、外部評価の項目をまとめる為に用紙を記入していますが、九つのテーマが多すぎて全てを達成するのは難しいと感じています。</p> <p>一つでも二つでも少しずつ自信持って出来たと思えるような目標にしないとモチベーションが上がらないと思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他の小規模事業所の見学は、もっと行った方が良い。 ・質の向上の為、今の小規模の元になった宅老所のような事業所を見て欲しい。その人の生活全般を支える為に様々な取組みをしている。 ・地域交流カフェなどしている事業所に参加したり見学して、自分達の事業所の取組みの参考にしたらどうでしょうか？ ・昨年から企画しているランチボランティアは、定額で地域の独居高齢者に配食に替わる食事と居場の提供しており、社会貢献としても評価できる。ぜひ、今後も継続して欲しい。 ・九つのテーマ、内容が難しい。 ・介護業界ではないが多面的事業のフォーラムに参加した。その際、今後は地域との関わり方が重要になると言われていた。高梁地区では小学生9名しかいない超高齢者地区で医療過疎地だが週1回の地区往診日には、地域住民の交流を図る取組みをしている。ただ雑談(本や昔の話)するだけでも、気持ちが元気になる居場所となる。皆、きっかけがあれば他者と交流したいと望んでいるのではないかな？ ・男性高齢者の活躍場所や居場所が少ない。基打ちなどボランティアを含め、会場があれば参加する地域の方がいるのではないかな？ 	<p>※「藤田荘しょうきぼたきのう」は、全員が心穏やかに過ごせる居場所であり、地域に頼られる存在としてもっとアピールしてゆこう。</p> <p>※他の小規模多機能事業所への見学や交流をして、自分たちの事業所活動やサービス内容を見つめ直そう。</p>
B. 事業所のしつらえ・環境	<p>事業所入り口の小規模多機能の看板を見やすく、わかりやすい案内掲示にする。誰にでも「笑顔で挨拶」で親しみやすさを出す。</p>	<p>玄関は、特養の入口と同じなので、当事業所の玄関専用ではないですが、いったん入って頂いた後の事業所の入り口を「玄関」として見立てて、今回、利用者さんと一緒に手作りの看板「藤田荘しょうきぼたきのう」を1年かけて作成しました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が利用者だったら、通所の椅子に一日中は座れない(窮屈、しんどい)。 ・小規模のホールにテレビは必要なのか？つけばなしでテレビを見せているのではないかな？利用者の為ではなく、職員が見ているような気がしている。 ・小規模のホールとトイレ、宿泊室が別になり、利用者の為の利便性や職員の業務の効率化を妨げている。構造上の欠点だから、仕方ない気もするが。 ・玄関の入口という定義がよくわからない。小規模の場合、併設施設だから、本当の玄関と事業所入口は別でしょ？ ・特養の中のユニットでは、より我が家らしく、入り口にポストや玄関前のエントランスを思わせる演出に凝っているグループがある。工夫次第で「親しみやすさ」や「入りやすい雰囲気」が演出できるのではないかな？ 	<p>※事業所の特徴やアピールができる工夫、事業所に気軽に立寄って頂ける雰囲気作りをしよう。</p> <p>※皆が居心地の良い空間、楽しく過ごせる時間、いつも共に笑い合える仲間のいる事業所であろう。</p>

C. 事業所と地域のかかわり	宣伝や存在を知らせる為に送迎車両に「事業所名」「電話番号」「キャッチコピー」の入ったマグネットシートを車体に貼って走行する。	今年度は、「現在の名称が変更されるかもしれない。」と言いつつ、結果、現状の名称のままだった為、パンフ等は変更せず送迎車に啓発用のステッカーは貼りませんでした。	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと地域の方が気軽に相談できる事業所だというアピールがあっても良いのではないか？ ・「藤田荘小規模多機能居宅介護事業所」(正式名称)が堅苦しいイメージで良くないと思ったが、結局は、そのままの名称になった。 ・名称は、置いといて、親しみの持てる「愛称」のような名前を考えたから？ 	<p>※地域での知名度は、まだまだこれから。「藤田荘しょうきぼたきのう」を外部の方にアピールをしよう。</p> <p>※地域の住民が参加できる企画を職員が考えよう。</p> <p>まずは利用者の笑顔がわかりやすいので写真展を企画する。</p>
D. 地域に向向いて本人の暮らしを支える取組み	もっと地域の行事やイベント等を調べ、積極的に職員や利用者が参加し、地域ボランティアを招き入れて地域との関わりを深める。	夜間の地域イベント(夏祭り)など、宿泊参加者と管理者、職員で参加するなど出来たと思います。小学校などをお願いして、今年度は新たに「学芸会」も見学参加できました。	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模さんはよく外出行事など参加出来ていると思う。地域のイベントなども、もっと参加出来たら良い。 ・地域の中にある事業所という意識を持って頑張ってもらいたい。相談窓口なども、取組みとして強化したらどうか？ 	<p>※地域のお祭りに職員と利用者で参加して楽しむ。</p> <p>※今までと違う場所や新しい交流の場所を拡大する。</p>
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議には、管理者のみでなく職員も参加して地域の意見を頂く機会と捉え意見を出してゆく	今年度前半は登録利用者数が減少し職員配置に余裕があったので運営推進会議に管理者と職員が交代で1名ずつ参加出来ていましたが、後半になってからは登録新規者が増加した為に管理者またはケアマネしか参加出来なくなりました。	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模事業所の運営報告だけでなく、事業所での成功事例や困難事例の報告などを運営推進会議で相談してみてもどうか？ ・枠組みの中だけで仕事をするのではなく、運営推進会議の場をもっと有意義に活用して欲しい。 ・今年度前半は登録利用者数が減少し職員配置に余裕があったので運営推進会議に管理者と職員が交代で1名ずつ参加出来ていましたが、後半になってからは登録新規者が増加した為に管理者またはケアマネしか参加出来なくなりました。 ・昨年、職員として会議に参加させて頂きましたが、意見や感想を求められても緊張して上手に話せなかった様な気がします。 	<p>※運営推進会議は、地域の方々が意見してくださる貴重な機会なので、人員配置に考慮しながら職員も参加して意見を出し、特にまだ未参加の職員から参加してゆこう。</p>
F. 事業所の防災・災害対策	事業所独自の防災訓練マニュアルの整備と藤田荘全体訓練や事業所単独訓練の参加、地域自治体の訓練等に参加する。	マニュアル作成の際どのような項目が必要なのかわからないので「施設向け防災対策について」という施設管理者むけの研修に参加し、今年度中にマニュアル完成する予定です。	<ul style="list-style-type: none"> ・藤田荘の防災計画があり、年に2回の防災訓練を実施している。小規模さんも同じタイミングで独自に参加している。 ・第一学区(藤田大曲地域)の合同防災訓練は藤田小学校で11月に終了した。小学校と近隣幼稚園の合同でしたので規模が大きかった。小規模さんに声を掛ければ良かったなあ。 ・運営推進会議で地域の話題が出るので、その際に地域の訓練の情報があれば、早めに提供して頂きたいです。 ・運営推進会議が2ヶ月に1回なので、その以前に最新で情報が入れば訓練計画を立てやすいのでご協力お願いします。 	<p>※事業所独自の防災マニュアルの早期作成と職員全員がマニュアルを周知し、緊急時に備えよう。</p> <p>※地域の防災訓練に参加しよう。</p>